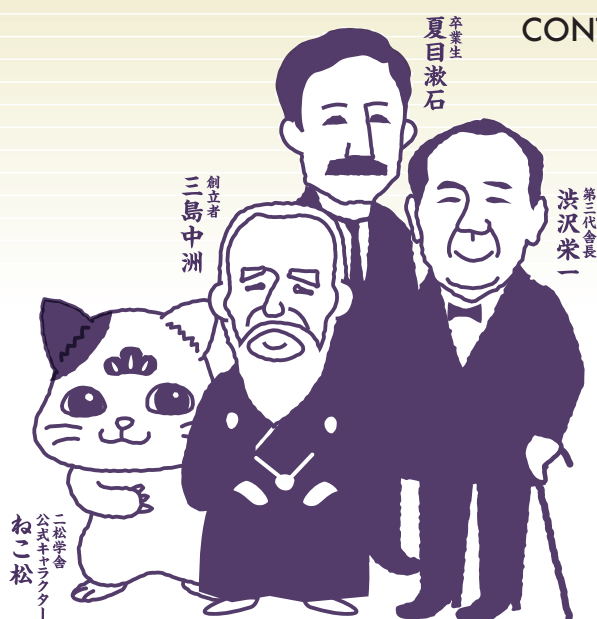




二松學舎 松苓会報



CONTENTS

- P2 平野光治会長 佐藤晋学長
- P3 吾輩推し言葉⑥
- P4 新連載 全国自慢地図①
北海道・宮城県・富山県・高知県・宮崎県
- P9 卒業生だより
- P10 母校を「学問の駅」に／人材バンク
- P11 出版図書紹介
- P12 学生会員だより 九段祭POP2025を終えて／サークル紹介
- P14 定期総会報告
- P16 事務局だより／訃報／訂正／編集後記

No.74 2025年 10月1日
二松學舎大学同窓会広報誌



三年目を迎えて

松苓会会長
平野 光治

2025年6月7日(土)の第30回定期総会の開催を経て、3年目のスタートを切りました。「会員の皆様の声を聞き、検討して本部の考えを必ず伝える。」との姿勢を守りつつ、

会員の皆様にとって有意義な松苓会となるよう努力してまいりました。

2025年度は、規程に則った事業の推進と大学、父母会との連携を図りながら、会員を大切に基本姿勢の下、本部役員の総意で諸事業を推進して参ります。課題として、①諸規程の整備、②4部会（事業部会・組織部会・広報部会・総務部会）による業務分担の推進と定着、③支部を縦系に、同期会を横系とする組織変革

と同期会の開催、④「会員の集い」と「100周年記念事業」開催の為の準備に着手の4つを掲げました。予算では「学生支援費」を新設して、「留学する学生支援」を設けました。また、本年度のホームカミングデーは11月2日(日)・3日(月)の2日間開催いたします。詳細は大学のホームページや松苓会のホームページで情報をご覧ください。

松苓会本部の事業は各都道府県支部活動や会員の皆様の活動に支えられております。本部は会員相互の親睦を図り、思想学術の向上に資し、併せて母校の発展を支援して参ります。過去にとらわれず、将来を見通して、松苓会や会員の皆様にとって良いと思われる事に取り組んで参ります。ご意見・ご要望を本部にお伝えください。検討いたします。

これからの二松学舎大学について

学長
佐藤 晋

私が学長に就任してから1年半となりますが、これまで松苓会様には学生支援等にご尽力いただき心よりお礼申し上げます。さて、現在の日本の高等教育を取り巻く状況は日に日に厳しさを増してきて

います。

一つには少子化の影響で定員割れを過半数の大学が引き起こしている問題があり、二つ目は生成AIの登場などデジタル技術の進歩によって社会に送り出すべき人材像に揺らぎが生じているという点です。後者については、理系人材の育成や理系・文理融合学部の設立が政府によって掲げられた2、3年前から今日まで生成AIの発展が想像を超えて進み、むしろ今後はAIを作る側のような高度人材以外は必要なくなるのではないかという見解も強くなってい

ます。そうすると、前者の対応として設置された理系・文理融合学部の将来はますます不透明感を増していると言わざるを得ません。

それでは、このような状況下、本学はどのような対応を取るべきでしょうか。まず生成AIを利用する能力を身につけることは必須です。これはどの学部においても、どのような職種に進もうと、それがデスクワークである限り同様です。さらに、生成AIを自分の生産性を向上させるような形で使えるようになっていないといけません。自分の

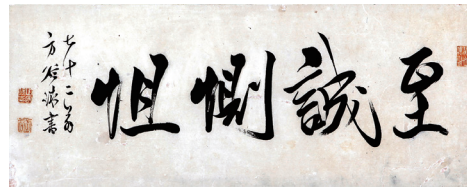
できないレポートを代わりにAIに書いてもらうようではいけないということです。AIに丸投げできる仕事は将来なくなっていくと思います。その上で、全員がAIを用いて仕事することになることを前提に、本学では人間の感情の部分を理解し、うまく対処できるような人材を育成していく必要があると思います。生成AIは知能の一部を代替しますが、対人関係など複雑な仕事は人間がやる以外にありません。このような面で、本学の教育資産は貴重な資源として役立っていくものと信じています。



吾輩、推し言葉

「至誠惻怛」 しせいそくだつ

6



今回は三島中洲の師、山田方谷の「至誠惻怛」である。「至誠にして動かざる者は未だこれ有らざるなり（真心をもつてすれば、人は感動しないことはい）」「孟子」を

思い起こす人も多いだろう。「至誠」はこの上もないまごころ。「惻怛」は人の心を推し量って同情すること。孔子の言葉なら「忠（まごころ）恕（思いやり）」である。〈儒教とキリスト教〉

皆さんは儒教とキリスト教に通底する思想はなんだと。「己の欲せざる所、人に施すことなかれ」（論語）と「汝の欲する所を人に施せ」（マタイ伝）一言でいえば「愛」まごころと思いやりで、人の

世に処する『黄金律』である。

また、「人事を尽くして天命を待つ」（晋書）と「天は自ら助くる者を佑く」（スマイルズ自助論）は表裏をなす表現として人口に膾炙し、この「天佑自助」の精神はキリスト教プロテスタンティズムとしても知られている。惜しまぬ努力が尊く、人生を切り拓く古今東西の名言である。

新渡戸稲造は『武士道』を世界に紹介した。プロテスタントである。無教会主義の内村鑑三は『代表的日本人』で日本の偉人を紹介。その筆頭は「敬天愛人」の西郷隆盛である。

〈日本の陽明学と山田方谷〉

日本の陽明学の祖は中江藤樹である。近江聖人と呼ばれ、その学徳は「孝」の精神で貫かれている。藤樹の弟子、熊沢蕃山と佐藤一斎は「治山治水」の天地の理法を重んじ、

方谷にも大きな影響を与えた。

山田方谷は備中聖人と称えられている。備中松山藩の藩校『有終館』の学頭を務め、30歳で昌平黌の佐藤一斎に従学する。45歳、藩主板倉勝静の命を受け、財政破綻寸前の松山藩を立て直すために大胆な藩政改革を行った。方谷の理財論は「義を明らかにして利を図らず」に代表される。

つまり、金銭の増減のみを追求せず、藩の規律を正し、教育の振興など数々の改革を実施。陽明学の実践であった。〈善意に基づく使命感〉

河井継之助は幕末から明治維新にかけて長岡藩の家老で、藩政改革や北越戦争における戦術など非凡な才を発揮した英雄である。この継之助が唯一の師と仰いだのが山田方谷である。方谷に生きた学問を求めたのである。

方谷の一番弟子はご存知三島中洲である。方谷の藩政改革をお手本に実践したのは河井継之助である。佐久間象山と山田方谷は一斎塾の塾頭だったころよく議論した。象山は

伝統的な東洋の道徳や社会制度を維持しながら、西洋の科学技術や知識を積極的に取り入れるべきだと。若き日の方谷は、儒学（朱子学・陽明学等）だけで乗り越えられると当時は考えていたようである。

「陽朱陰王」という言葉がある。立場は朱子学であるが実際は陽明学の傾向が強いことを言う。昼間は朱子学、夜は陽明学を学ぶ。天下の昌平黌学問所も時代のうねりの中にあつたのだ。

昭和100年、明治160年この国の精神文化は神道、儒教、仏教、道教、キリスト教に限らず全てを取り込んで今なお混沌の中にある。世界は平和の声のみ高くして未だに紛争は絶えることがない。国際社会はこれからどこへ。なぜ殺人はいけないのか。なぜ戦争はだめなのか。我々は説得力のある言葉を持っている。それは「己の欲せざる所、人に施すことなかれ」であり、それが「至誠惻怛」なのである。

家永 修（44文・院修11文）

新連載

全国自慢地図 1

新連載

74号からスタートしました

全国自慢地図①

テーマは「お国自慢」「わが支部には、風光明媚なところがあります」「このような人物の出身地です」といった地域の誇りから、「私はこのようなことを研究しています」とか「このようなことをしました」など、個人的な出来事まで、各々の地域に根ざしたニュースをお寄せください。写真やイラストなどを添えてくださると有難いです。各支部長・会員の皆さま、ご紹介お願いいたします。と、前号でご案内したところ、早速、北海道・宮城県・徳島県・高知県・宮崎県の5支部の支部長さんの協力によりスタートしました。

同窓の皆さんに伝えたい、お知らせしたいことがあります。したら、松苓会事務局まで、原稿をお寄せください。お待ちしております。

北海道支部

函館自慢ホラ話

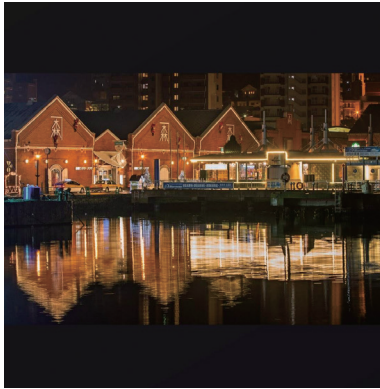
ピンチをチャンスに

荒井 到 (51文)



北海道の面積は「九州に、四国を二つ足す」よりも広い。従って全部を網羅するのは不可能。そこで報告者の住む函館に絞って申し述べる。

函館には五稜郭公園と函館山という二大観光スポットがある。また湯川温泉は道内屈指の宿泊地で、大きなホテルもある事から団体旅行には重宝されている。最近では「名



(撮影：及川修氏)

探偵コナン」の舞台になったので所謂「聖地巡礼」で函館を訪れる人も多い。しかしハナから観光地であったわけではない。

以前は北洋漁業の基地として栄えていた。造船も盛んだった。観光は重視されていなかった。観光地図さえなかったのだ。昭和40年代中頃、北洋漁業が不振になり、造船も勢いをなくして行く。深刻だったのが北洋漁業周辺の業者。例えば倉庫業。海産物で一杯だったのがスカスカに空いてしまう。しかしここで金森商船という倉庫会社は起死回生の一手を打つ。外観が明治時代の赤レンガである事を幸い、倉庫の中にコンサートホールを造り、土産物屋や飲食店を呼び込んで観光資源の一つにしてしまったのだ。やがて函館は観光の町となり、今この施設はその目玉となった。ピンチをチャンスに変えた事例でもある。

先人たちはこうして函館を自慢できる町にしてきたが、私たちはこれからどうやって



(撮影：及川修氏)

誇れる函館を作るか。まず問題になるのは少子化。その対策を函館ゆかりの人物の活用と共に考えてみた。函館には土方歳三・石川啄木などの有名な人も足をとどめてはいるが、これをアピールしても観光客を増やすだけ。子どもの増加にはならない。ではどうする？

(この後は本気で読まないで欲しい。申し遅れたが報告者は「荒到夢形」こうとうむけい」の高座名を持つ講釈師。「講釈師見てきたような嘘をつき」という川柳の通り

で、妄想・ホラ話で飯を食っているのだから。」

まず何より若い男女を呼び込むこと。しかし彼ら彼女らに魅力的な施設は少ない。そこで物より人で若者を呼ぶ事にする。まず芸能事務所と芸能人養成学校を函館市として建ててかっこいい男を養成する（公立のこういう学校は日本初。これだけでも話題になる）。かっこいい若い男が増えればそれにつられて若い女性が増える。流れて自ずと少子化対策になるというわけで・・・あ、ページを閉じないで！！具体的に、事務所は少子化で廃校になる学校の校舎を利用する。防音装置のしっかりした放送室やグラウンドピアノのある音楽室など、活用できそうな部屋は多い。また児童の減少は観光地のある西部地区が激しいから、こちらの校舎を使えば観光客相手の注文にもすぐに対応できる。講師には少し歳を取ってきた函館出身のロックスター「グレイ」を招く。理事長には函館西高出身の北島

三郎御大にお出で頂き、金がなくなったら競馬で稼いで貰う。校長には函館市長の実弟の大泉洋を引っ張り出す。

廃校というピンチが人口増のチャンスに変わるホラ話。本当に荒唐無稽な事を考える奴だと思いだろうが、かつて二松学舎大学で教えて頂いた青山忠一先生の仰っていたのが「確かに俺の言っている事はホラ話だ。しかしホラを吹き当てるという事がある。」だった。函館が今後とも自慢できる町である為に、これからもホラを吹き続けて行こうと思う。

宮城県支部

『私のお国自慢―宮城県』

菊池 純（42文）



なんかタイ
トルが宮田輝
さんの番組み
たいで古い

ね。（わかる人は年寄り！）
さて宮城発祥のものといえ
ば、なんとフィギュアスケー
トなのです。その所為か、荒

川・羽生両金メダリストを輩出し、祝賀パレードで盛り上がりました。

高値で問題になっているお米では、これこそ真打ちササニシキ。一流の寿司店ではササニシキしか使用しないそうです。県の農事試験場さんが開発してくれました。ありがたい。

海の幸も豊富。フカヒレ（高級すぎてめったに食べない）、鯨（さしみが美味）、カキ・ホヤ（酢の物で一杯）、ホタテやサンマそしてマグロ。銀鮭養殖日本一。北限のシラスにホッキ貝。ワカメに海苔。水族館で全国的にお子様人気マンボウも淡泊でおいしい。

ところが産地の気仙沼・志津川・女川・石巻など沿岸部は軒並東日本大震災の大津波により、最悪の被害を被った。建物はずっとより、貴重な人命も…。

悲しければ泣くのだろうが、そんなことを通りこして、涙もでない。啞然とするのみ。震災時、気仙沼に滞在

していたサンドウィッチマンは識者と称する人物のアドバースに対してこう言った。「そういうものが必要なのはわかっている。でもどこにあるんですか。ここには何もありません。」よくぞ人々の気持ちを代弁してくれたと拍手したい気分だった。

あれから15年近く、県民は心に痛みをかかえながら、地道に努力を重ねて復興に尽力している。

サンドウィッチマンは今も全国で復興支援を呼びかけている。彼らが寄贈してくれたトイレットカーは、能登に派遣され、喜ばれたようだ。

結局、お国自慢は日々の生活を営んでいる県民の皆さんに尽きるのだろう。

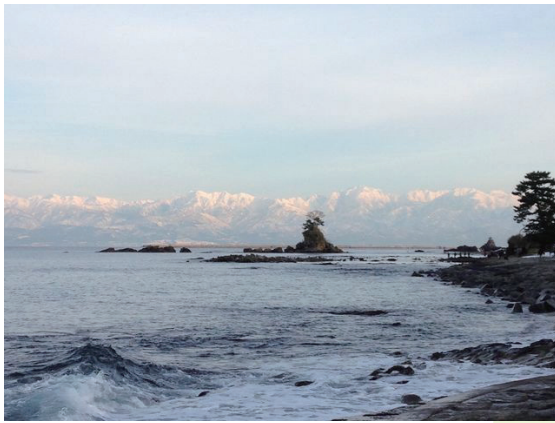
富山県支部

支部長 小島貴雄（47文）



富山県の美しい自然と文化を楽しむ旅へようこそお

越しくございました。



海越しの雪の立山連峰

北陸新幹線が開通して10年になりますが、東京から2時間余の近さもあり、多くの観光客が訪れております。

四季折々の景色が魅力で、海越しの雪の立山連峰の景観は、世界に類を見ない光景で感動的です。

黒部ダムや立山連峰など、アウトドアアクティビティが充実し、山岳信仰や温泉文化も楽しめます。

3km級の山々から流れ出す急流が形成した水深千mの富山湾。4kmの世界が豊かな海の幸・山の幸を産み出しています。是非ともご賞味ください。

ださい。

地元の新鮮な魚介類では、冬の氷見寒ブリが絶品です。円やかな豊かな水から醸し出される地酒の数々は楽しみの一つです。ホタルイカや白エビも美味ですが、昨年の能登半島地震の影響でどうか漁獲量が激減状態にあり、大変残念です。

9月1～3日の八尾風のおわら盆には、狭い坂の町が観光客であふれる状況になります。胡弓の哀愁を帯びた音色を奏でながら、小京都と言われる坂道を優雅に踊り歩く男衆や女衆の姿に魅了させられます。

富山ならではの伝統工芸品の木彫りや鋳物、ガラス細工などのそれぞれの体験工房にて実際に触れ、ここでしか味わえない体験をお楽しみください。

文学の世界・映像の世界に風光明媚な県内各所が取り上げられ、聖地巡礼者が増加傾向にあります。

皆様のご訪問を、心よりお待ちしております。

高知県支部

アンパンマンが生まれた土壌

支部長 足達 昇(55文)



一昨年、NHKの連続テレビ小説(朝ドラ)「らん

まん」が放映された際、主人公の牧野富太郎博士の郷里高知県佐川町では、大規模な道の駅が完成し、多くの観光客で賑わいました。今年度前期の朝ドラは、「あんぱん」。アンパンマンを生み出したやなせたかし(以下「やなせさん」と小松暢(のぶ)夫妻をモデルに、高知を主な舞台として展開する物語です。視聴率も順調で、アンパンマン人気も相まって県外からの観光客が増えたと聞きました。

やなせさんは、1919年に高知県香美郡香北町(現高知県香美市)に生まれ、高知県南国市で育ちました。一方私は、40歳以上年齢が下ですが神奈川県で生まれ、大学卒業後、父の郷里の高知県で高



道の駅 佐川

校教員となり、1919年には大栃高等学校(2010年に閉校)に赴任しました。やなせさんの故郷香北町から10kmほど山へ入った物部村(現香美市物部)にある高校です。

勤務した6年間、家族とともに物部村に住んだため、香北町にはよく行き、また頻繁に通りました。幼少だった我が子と「それいけ!アンパンマン」をテレビでよく見ており、アンパンマンの舞台(アンパンマンの里)が香北町にそっくりなことに気づきました。のち、やなせさんが、自

分の原風景は故郷にあると語っていたのが印象的です。1996年には最初のアンパンマンミュージアム、「やなせたかし記念館」が香北町に開館しました。近所だったため、真新しい記念館に何度か訪れる幸甚にも恵まれました。

1997年、私は高知市中心部にある高知追手前高等学校へ転勤になりました。旧制第一中学校を前身とする、1878（明治11）年創立の伝統校です。寺田寅彦、浜口雄幸、横山隆一などを輩出しています。ちなみに寺田寅彦



やなせさんの故郷（香美市香北町）



アンパンマンミュージアム

は、高知一中から熊本の第五高等学校へ進み、そこで夏目漱石との運命的な邂逅を得ています。やなせさんも卒業生の一人です。

追手前高校は、本館校舎が有名です。1931（昭和6）年に建てられた、時計台を中心に据えた白亜の建物は、国の登録有形文化財に指定されました。90有余年たった今も現役です。やなせさんは1930（昭和5）年に入学しており、4年間この校舎で学びました。

創立百周年記念誌『時計台だより』に、やなせさんは中

学時代の思い出を寄稿しています。数学と英語は苦手、国語と歴史、図画・体操は得意、絵の時間がとても楽しかった、高知新聞の懸賞漫画に3年連続入選した等々、興味ある内容が書かれています。また、学校には古いクラス写真が残されており、昭和10年のアルバムには、5Bにやなせさんが、2Cに弟の千尋さんが写っています。

私は、追手前高校に勤務した20年間、やなせさんと直接お会いする機会に恵まれなかったものの、今でも二つのことをはっきり覚えています。

まず、創立百二十周年記念事業に、アンパンマンの原画をいただいたこと。手に取って間近に原画を見、その鮮明な色使いが目には焼きつきました。そして、母校のイメージキャラクター「OOくん（おおくん）」と「ぎんこちゃん」を寄贈してくれたこと。完成までの、やなせさんと校友会（同窓会）とのやりとり、つまり制作のプロセスを知り、実に多くのアイデアと工夫が

込められているのに驚きました。アンパンマンが、広く子供たちに愛される理由を垣間見た気がしました。



高知県立高知追手前高校



高知追手前高校のやなせさんコーナー

宮崎県支部

宮崎県ってどんなところ

支部長 内村厚夫（44文）



宮崎県は「太陽と緑の国」「日本のひなた宮崎

県」などいろいろなキャッチフレーズで紹介されています。県庁所在地は宮崎市、黒潮の影響を受け年間を通して温暖な気候であり、平均気温、日照時間、快晴日数など全国トップクラスであることからまさに「日本のひなた宮崎県」というキャッチフレーズにぴったりなところudur。県南部には観光地として有名な日南海岸があり、県央には神武天皇をまつる宮崎神宮、県北には国の名勝天然記念物に指定されている高千穂峡などがあります。「神話の里宮崎」「こんな偉人がいます」この2点から宮崎県の紹介をしたいと思います。宮崎県には現存最古の歴史書である古事記、日本書紀に記された神々の物語にまつわる地が数



神楽

多く点在しており神話伝説もあちこちに伝わっています。年末ともなると神々を迎える神楽の奉納が夜通し舞われ神秘の世界に誘われます。国の重要無形文化財に指定されている高千穂の夜神楽は11月から2月の夜に神楽宿と呼ばれる民家や公共施設に神を招き五穀豊穡を願って舞が披露されます。天の岩戸開きで名高い天の岩戸神社をはじめ、高千穂神社、高千穂峡は観光の名所として年間を通して多くの観光客で賑わいます。

次に郷土の歌人若山牧水についての紹介です。酒をこよなく愛し社会や流行などに流されることなくその時々にかき起こる思いや頭に浮かぶ情

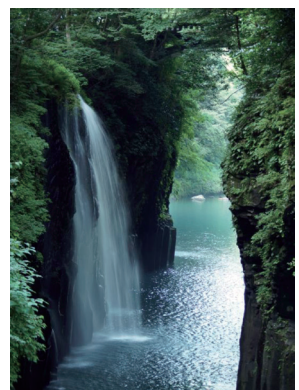
景を独自の世界観で表現しているところが今なお人々に共感されている所以でしょう。

・幾山河越えさり行かば寂しさのはてなむ国ぞ今日も旅ゆく
・白鳥はかなしからずや空の青海のあをにも染まずただよふ
・白玉の歯にしみとほる秋の夜の酒はしづかに飲むべかりけり

など多くの名歌を残しています。宮崎県初の若山牧水賞が創設され全国に誇れる短歌文学賞として今年で30回目の節目を迎えます。受賞された歌人達はその後も全国で活躍されており全国に発信する牧水賞として位置づけられています。

高校生による牧水短歌甲子園の大会もあり県内外を問わず毎年短歌の出来栄を競い合う高校生による熱い戦いが繰り広げられます。牧水短歌甲子園は宮崎県日向市が主催し2011年から開催されている高校生を対象とした短歌の全国大会です。

牧水の生誕地である日向市東郷町の小学校では毎朝登校



高千穂峡

時に正門で牧水の歌の朗詠が行われ先人の教えを今に受け継いでいます。牧水は現実をありのままに表現する「自然主義」の思潮を受け、43年の生涯でおおよそ9000首の歌を詠んでいます。『海の声』をはじめとする歌集のほか紀行文や随筆、童話などの作品が数多く残されています。牧水の歌は歌碑としても全国各地にたくさん残されています。

最後に忘れてならないのが食文化です。宮崎牛やチキン南蛮、地鶏、餃子、マンゴー、日向夏などの美味しい食べ物も楽しみの一つです。また、スポーツランド宮崎としてプロ野球のキャンプをはじめいろんなスポーツ合宿が年間を通して行われています。自然、食、神話、スポーツなどの魅力が詰まった宮崎県です。

卒業生だより

書作展を実施して

鈴木 隆 (50文)



昭和53年、北海道の下田舎を飛び出し花の都

のど真ん中で「書道」に出会いました。

あれから47年……。この度、任期満了により43年間の高等学校書道科教員の職を退きました。

「書」という完成形のないう遠い道のりを思えばこれも単なる通過点に過ぎないのかもしれないが、これ

思い出が支えてくれる

今野 哲 (53文・院博25文)



昭和60年の国文学科卒業後、高校勤務を挟

んで、大学院に戻り、長岡高専を経て、日本体育大学で文学関連の科目を担当しています。今年のゼミでは、小川洋子・芥川龍之介・山際淳司の作品を読んでいます。日体大にも文学のゼミがあるので。

競技スポーツの世界は、

までの集大成と今後の展開に向けた一つの契機にしたいという強い思いが、私にはありました。換言すれば、二松学舎に学んだ証を明確にしておきたかったということです。

室蘭市もご多分に漏れず人口減少問題が深刻です。それでも今の私の生活の場であり、小さいながら市民美術館があります。恩師難波清邱先生（現名誉教授・書峯主宰）より特別賛助出品と作品集巻頭祝辞を頂戴し、桜咲く五月、その全館を借り切り「鈴木海

人間社会の理不尽さが端的に現れる場です。血の滲むような努力をしても全く報われないう。一方、懶惰で不遜な人間でも、易々と勝利を重ね、世の称賛を浴び続ける。不条理と言えば不条理な世界です。

だからこそ、運動選手は文学を学ばねばならない。日体大は、そう考えるのです。

来年、日体大へ、日本文芸学会の大会をお迎えすることとなりました。二松学舎の山口直孝先生が代表理事をお務めになっている学会です。只

龍書作展」を実施することができました。コンセプトは「下手は下手なりに今を書く」。今思えば、我ながら分不相応な挑戦で、案の定、毎年の社中展や教職員展、各種公募展などとは桁違いのエネルギーを要するものになりました。

それでも、これまでの学びを結集して筆を走らせる快感と個展開催の重圧とが交差した足掛け2年の取り組みは、大きな疲労感と幾許かの達成感を伴った6日間に集約され、予想以上に有意義なもの

今、その準備に取り掛かっているところです。

矢の如き光陰を振り返れば、私は、じつに不真面目な学生であった。教室よりも、劇研のアトリエにいる時間が長かった。卒業に迫り着けたのは、当時の先生方の雅量のおかげです。

大学院に戻ってからは、新着任の今西幹一先生と、学部ゼミ以来の林武志先生のもとで、兼学・研鑽に努めた。両師の学恩あつての私である。もとより、院では多くの先生

になりました。そして、たくさんの方々「二松学舎」の名を覚えていただくことができました。会期中、幼馴染と50年ぶりの再会がありました。同期生がはるばる千葉県から足を運んでくれました。そして、高柳幸雄松苓会幹事長のご来覧も。

今後も古典学習を欠かすことなく、新たな可能性を見出し、着実に試みていきたいものです。願わくは、二松学舎松苓会の皆様との交流を楽しみながら……。 拝謝

方の慈しみを忝くしました。

師恩は別して、院の仲間やゼミ・劇研の友人たちも、私の人生にかけがえのない光を灯してくれた。彼等の多くとは、もはや再び、この世で会うことは叶うまい。だが、一人一人の眉目・風姿も、声やしぐさも、私の胸底にたしかに存している。その思い出に支えられて、いまの私の命がある。彼等との思い出が、私の老いの坂を、生きるに値するものにしてくれる。しみじみ、そう実感しています。

母校を「学問の駅」に

ステージ

片山聖英（50文・院修17文）



児童も参加した祭りの場面

舞台『山田方谷物語 奇跡の藩政改革』を昨年、観た。原作は野島透氏の小説で、松山藩の財政立て直しの功績を通しての人間的な面が描き出されていた。実は、この舞台に教え子が出演していたので駆け付けたのである。

この初演が好評であったため、この後、東京と岡山有志の会が地元岡山でも上演するという企画が立ち上がった。さらに上演に際して、物語の中で描かれている祭りの場面では地元の児童にも出演してもらったことになり、群集劇

の稽古が必要で、県内の三都市公演に対して中一日ずつの地元の児童たちの稽古日が設けられて、上演日の選定がされた。そのために12月6日が新見市、8日が高梁市、10日が岡山市での公演となった。3日間で3千人以上が観賞した。

今回の『方谷物語』の上演で、他の上演舞台と違ったのはどの劇場でも小中学生が多く観に来ていたことである。「地元の有名な人なのに、詳しく知らなかった」「方谷さんをもっと知りたい」という声が多かったことである。

我々の人生は「知りたい」と思うことから始まる。本誌「卒業生だより」を拝見しても、卒業されて二、三十年と打ち込まれた姿に感激するのである。母校二松学舎大学の先生方や卒業生の話が聴ける機会を欲すると共に、二松学舎が知りたいを叶えてくれる「学問の駅」となることを願うばかりである。

「人材バンク」登録募集

あなたの力で、会員や大学を応援してください。

会員（含む学生）が同窓の皆さまに講演・研究などのご協力を希望することがあります。その機会に備え、松苓会では平成2年度に「人材バンク」の事業を立ち上げました。求めに応じて提供可能な知恵や技能を皆さまから事前に募ります。人材登録をお待ちします。

なお、現在の登録状況は下表のとおりです。

- 内 容** 講義・講話・講演・指導などの講師
ボランティアを基本とし、必要経費は主催者と相談により決定
- 登録方法** 松苓会事務局にメールで「人材バンク要項」を請求してください。
「人材バンク要項」と「人材バンク登録票」をお送りします。
「人材バンク登録票」に必要事項を記入後、メールに添付して松苓会事務局までお送りください。

登録申請・問合せ先 松苓会事務局 〒102-8336 東京都千代田区三番町 6-16
TEL 03-3261-7408 FAX 03-3261-8914
E-mail : shourei@nishogakusha-u.ac.jp

☆登録者に講演等依頼を希望される場合は、松苓会事務局までご連絡ください。

人材バンク登録者

（2025年10月1日現在）

氏 名	卒業期 学部	内 容
高橋 三男	34 文	名僧了翁禅師について 民俗紀行家の菅江真澄について
辻 維周	47 文・院修 14 文	音を使った鳥獣害ロードキル、レールキル、バードストライク防止
松尾 廣文	48 文	道德教育、学校経営、SDGs 教育、教師育成
花岡 邦郎	48 文	教員志望学生対象に授業、校務、部活動の実態について
小金澤 豊	50 文・院博 39 文	論語、漢詩、漢字の各講座 興味を抱かせる指導法
宮島 裕介	73 政	ドローンに関する説明及び実演 趣味からインフラ点検まで網羅
太田 昌明	78 政	簿記・会計・税務教育 社会人や副業、フリーランス起業に必要な知識 公認会計士・税理士兼務

難波正久名誉教授

『書業八十年 いのちを書く』

卒壽 難波清郎

わぶん出版

30,000円(税別)

2025年3月刊

『書のDNA 遺伝子』

色紙・短冊・扇面作品集』

わぶん出版

2,000円(税別)

2025年3月刊



卒寿を迎えられた名誉教授の難波正久先生が、この度2冊の作品集を出版された。コロナ期を乗り越え、2023年3月には日中友好会館美術館にて米寿展を開催、先生の書作に対する精気は益々盛んで、このところでも大作(縦3m×横8m)を揮毫されています。

ここ2年間の作品は大小合わせて3千点に及びます。

この2冊は、80年間、書を追究された先生の集大成です。特に『書のDNA 遺伝子』は、先生の指導を受けられた卒業生には手元に置いてほしい一冊です。

(難波ゼミ一期生 高柳幸雄)

卒業生の出版図書

柴垣博孝さん(44文)

『安藤昌益の謎』

『詩文聞書記』から読み解く

八戸での人間模様

農山漁村文化協会

2,750円(税込)

2024年2月刊



安藤昌益は、なぜ八戸に姿を現したのか。また八戸に姿を現した昌益は何を述べていたのか。昌益の来八によって八戸藩内ではどのような人間模様が展開されていたのか。

このような今まで謎とされてきたことについて、一つの手がかりを与えてくれるのが本書で読み解いた『詩文聞書記』である。『詩文聞書記』には、今まで我々が目にしたことのないような光景が広がっている。本書では、その光景を三部に編集しなおして解説を加えた。

本書の出版が、安藤昌益関係の研究や、江戸時代における地方社会の研究などに資することができれば幸いである。

(著者)

勅使川原 寛(53文)さん

『俳号』原 光生

『句集 かぶと虫』

株式会社「文學の森」

ISBN 978-4-86737-247-0

2,200円(税込)

2024年

10月刊



平成21年から「泉の会」という俳句サークルを地元伊勢崎市で立ち上げました。約15年間に作りためた俳句がまとまり、令和5年3月で伊勢崎市役所を定年退職し、還暦と定年退職の記念として令和6年10月、句集「かぶと虫」を「文學の森」から上梓しました。

本句集のタイトル名は、「かぶと虫少年ジャンプと交換す」の句が、第三十回俳人協会俳句大会選者、井上弘美先生の入選作品によるものです。装丁・装画を南伸坊氏に依頼し、表紙に埴輪、裏表紙にかぶと虫のイラストで、素朴な仕上がりになっています。

現在、「鴻」同人として句作に励んでおります。

(著者)

高梨大翼さん(72文)

『僕は36歳で』

自転車世界一周の旅に出た

36歳脱サラ自転車旅行

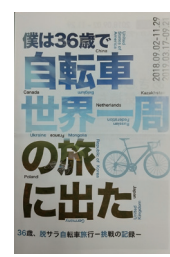
『挑戦の記録』

紙と言葉舎

タブロイド紙

2025年

4月刊



大学在学時から本格的に自転車旅行を始めました。在学時に日本各地やオーストラリア東海岸などを自転車旅行しています。著書では、大学在学時から長年の夢だった自転車世界一周旅行の記録が綴られています。単なる旅行記ではなく、「夢を追うことの大さ」「挑戦に年齢は関係ない」などをテーマに書かれています。

世界を周る道中で、たくさんの旅人に出会った。みんなフレンドリーで優しいひとたちばかりだった。「なぜ世界一周の旅を?」と聞かれることがある。その答えはきっと彼らの笑顔の中にあるのだと思う。

(著者の言葉より)

学生会員だより

九段祭POP2025を終えて

学生会執行委員会 九段祭

POP2025責任者

文学部3年 荒井菜那

九段祭POP2025責任者を務めさせていただきまし
た、文学部国文学科3年の荒
井菜那と申します。今年度も
文化団体が日頃の活動の成果



学生会執行委員一同

を発表する学内向けの文化祭として6月15日(日)に学生会執行委員会が主催となり、九段祭POP2025を九段キャンパスにて開催いたしました。「紫雲(しうん)」というテーマ、「めでたいしるし」とされる雲。空へ向かってあの日願ったことを覚えているだろうか。神秘的な情景から思い起こされる慈愛をもって世界を見て、希望の世界への一步を踏み出そう。」というコンセプトを掲げ、今年度の九段祭POPに携わる皆様が存在に楽しめるような行事にしたいと役員一同、一致団結して準備を進めてまいりました。

今年度も多くの団体にご参加を得ました。どの団体も当日に最高の発表が行えるように準備している様子が見受けられました。我々学生会執行委員会も新たに1年生が入会し、新体制で一丸となり、満足のできる発表が行えるよう協力させていただきました。また、教室や中洲記念講堂での発表は団体と来場者の垣根



を越え、双方が楽しむことができたのではないかと存じます。九段祭POPは春に入学した1年生にとって最初の大学運営行事となります。参加者としても、来場者としても、また運営側の学生を含めて始まりのイベントとなります。学生にとって良き思い出となっていたらこちらとしてもうれしいです。学生会執行委員会では毎年恒例となっているビンゴ大会と、1年生が主体となり、参加してくださいという方が形式や難易度によって楽しめるように「誰でも解けますよね?クイズ!」「二松王」という2つのクイズ企画を準備いたしました。参加人数や企画の開催時間など、

来年度以降への課題は見受けられたものの、どの企画も来場者の皆様の楽しい思い出のひとつとなっていれば幸いです。

今年度は梅雨時期の開催であったため、あいにくの天候でしたが、昨年よりも多くの皆様にお越しいただきました。参加した団体の皆様、九段祭POP2025に足をお運びくださった皆様のご尽力のおかげで今年度も無事九段祭POPを開催することができたと考えております。この場をお借りして深く御礼申し上げます。来年度以降も役員一同団結して、より多くの来場者の皆様に満足していただく九段祭POPを目標に精進していきたいと存じます。

また、11月には「創縁際2025」を学園祭実行委員会が主体となり、開催させていただく予定です。学内生向けであった九段祭POPと比べて参加団体も増え、芸能人を招致して、中洲記念講堂で行うステージイベントや模擬店出店など規模が大きくなり

ます。九段祭POPの経験を活かし、皆様からいただいたご意見などを踏まえて昨年度よりさらにレベルアップしたイベントになるよう尽力いたします。皆様のご来場を役員一同心待ちにしております。創縁祭が成功しますよう応援してくださいと幸いです。今後とも学生会執行委員会、学園祭実行委員会を何卒よろしくお願いいたします。

サークル紹介

茶道部

文学部2年 谷本陽夕羽

こんにちは。二松学舎大学茶道部です。突然ですが皆さん抹茶はお好きですか。当たり前のことですが、茶道部では日々抹茶を美しく点てる練習をしています。今年なんと部員が10人以上入り、総員25名の和氣藹々とした部活となりました。そんな茶道部、一見、仕来りが厳しそうと思う人が多いでしょう。しかし、やる気さえあればどんな上達でき、自分の成長が目に見えて分かるので、やっ



お手前披露

ているうちに夢中になれる楽しい部活です。実際、部員はみんな楽しんでいきますし、入部当初から見えて著しい成長がうかがえます。

さて、茶道部は今年POP祭にてお茶会を開催させていただき、創縁祭でも引き続きお茶会を開催する予定です。お茶に興味がある方、茶道に興味がある方など、どんな方でも大歓迎です。お茶会と言えば堅いイメージを持つかもしれませんが、学生が開くお茶会に関しては、いざ来てみると割と緊張せずリラックスして入れるものです。ぜひお

気軽ににお越しください。美味しいお菓子とお抹茶を用意して、部員一同心よりお待ちしております。

手話サークル「架け橋」

文学部2年 西尾優花

初めまして。私たちは、手話サークル「架け橋」です！2024年春にできた非公認サークルです。週二回活動で、どちらの曜日も同じ内容を行っているのです、兼部しているサークル員も多くいます。週に一度の参加でも大丈夫です。

サークル員は、サークル長の私を含め、34名です。大学生から手話を始めた人がほとんどで、ゲームなども用いながら、楽しく覚えることをモ



打合せ中のメンバー

ットーに学んでいます。

ここで皆さんに質問です。手話という言葉のメリットはなんだと思いますか？色々ありますが、私は電車のガラス越しでも会話ができることだと思っています。本サークルでは、毎活動後、SNS（インスタグラム、X）にて活動の様子を発信していますので、SNSを見て、質問の答えを考えてくれると嬉しいです。そして、見学からでも是非いらしてください！

インスタグラム…syuwa_kakehasi
X…@syuwa_kakehasi



2025年度「第30回松苓会定期総会」開催報告



平野光治会長より挨拶

2025年度の定期総会が2025年6月7日(土)13時30分から二松学舎大学九段1号館11階会議室で開催された。

当日は五十嵐清常任理事、佐藤晋学長が臨席された。

総会は、馬淵裕之常任幹事により開会が宣言され、高柳幸雄幹事長から、昨年度の総会以降に物故された松苓会会員と大学関係者について報告があり、黙禱を捧げた。

続いて構成員77名中出席者38名、委任状20名、議決権行

使書提出者10名の合計68名の参加があり、総会の成立が確認された。

平野光治会長の挨拶があり、五十嵐清常任理事、佐藤晋学長、廣田克己顧問からそれぞれ挨拶があった。議長に大山由美子副会長が、副議長に星野優子副会長が、書記に小林孝彰常任幹事と篠原貴幹事が、議事録署名人に家永修常任幹事と青木一弥埼玉県支部長が指名された。

議案審議

次第に従い議案の審議が行われ、第1号議案から第7号議案まで原案どおり承認された。

第4号議案において、会則と細則の改正が承認されました。松苓会ホームページに会則・細則を掲載していますのでご確認ください。

新役員

新たに役員とられた方の紹介があった。

新任幹事 小町邦明(49文)

同期会代表幹事

第93期 中里真輝人(93文)

幹事 岡本由美(44文)

諸報告

- 1 学校法人二松学舎評議員について
新評議員
- 2 支部運営助成費等についてお願い
- 3 二松学舎松苓会へのご意見・ご要望について
- 4 その他
・役員の皆様より

総会議案

- 1 2024年度事業報告並びに事業監査報告
- 2 2024年度収支決算報告並びに経理監査報告
- 3 奨学金返金請求宛先ふめいによる損金扱いについて
- 4 二松学舎松苓会諸規程の改正に関する件について
- 5 2025年度事業方針並びに事業計画案
- 6 2025年度予算案
- 7 2025年度二松学舎松苓会役員等について



当日、ご参集の各支部長

2025 年度 松苓会予算				
2025 年 4 月 1 日～ 2026 年 3 月 31 日				
○収入の部				
前入	年	度	繰	越
会	費	金	金	金
(会費)				7,443,375
新既卒者終身会費				12,105,000
小寄入・付受取利息				300,000
雑預				12,405,000
合	計			500,000
				500,000
				0
				24,883,375
○支出の部				
事業費				
松苓会会報等発行				
印刷・制作費 (74・75 号分)				1,300,000
発送費 (74・75 号分)				3,000,000
「伏苓」発行費計				0
小				4,300,000
卒業生交流事業				
ホームカミングデー				600,000
小				600,000
卒業生支援事業				
支部運営助成費				1,000,000
支部報発行助成費				600,000
支部強化等助成費				100,000
支同小				300,000
小				2,000,000
母校支援事業				
教育振興資金助成費				1,000,000
教小				100,000
小				1,100,000
在学生支援事業				
学学生支				500,000
学園祭助成費				100,000
課外活支				200,000
教入学文記念品費				1,000,000
卒学業員活動支援費				300,000
小				900,000
小				200,000
小				3,200,000
小				11,200,000
運営費				
会				300,000
出				1,500,000
出				300,000
本				550,000
会				1,000,000
小				3,350,000
通				150,000
備				200,000
印				350,000
消				400,000
慶				100,000
謝				50,000
手				80,000
賃				240,000
雑				60,000
運				5,280,000
特別会計				
周				1,000,000
松				500,000
苓				2,000,000
特				3,500,000
別				4,903,375
会				24,883,375
計				

2025 年度 松苓会特別会計予算				
1 周年事業積立金 (収入の部)				
2024 年度からの繰越				6,755,967
2025 年度繰入				1,000,000
合	計			7,755,967
2 松苓会奨学基金 (収入の部)				
2024 年度からの繰越				9,940,473
2025 年度繰入				500,000
2025 年度貸与返還金				375,000
利				4,544
合	計			10,820,017
(支出の部)				
2025 年度給付奨学金				1,028,000
手				1,760
合	計			1,029,760
3 松苓会費積立金 (終身会員積立金の名称変更)				
2024 年度からの繰越				79,308,013
2025 年度繰入				2,000,000
合	計			81,308,013

2024 年度 松苓会収支決算書				
2024 年 4 月 1 日～ 2025 年 3 月 31 日				
○収入の部				
前入	年	度	繰	越
会	費	金	金	金
(会費)				7,923,500
新既卒者終身会費				4,310,000
小寄入・付受取利息				10,320,000
雑預				350,000
合	計			10,670,000
				575,681
				529,227
				24,008,408
○支出の部				
事業費				
松苓会会報等発行				
印刷・制作費 (72・73 号分)				1,155,000
発送費 (72・73 号分)				2,659,774
「伏苓」発行費計				0
小				3,814,774
卒業生交流事業				
ホームカミングデー				645,852
小				645,852
卒業生支援事業				
支部運営助成費				749,455
支部報発行助成費				473,972
支部強化等助成費				0
支同小				36,136
小				1,259,563
母校支援事業				
教育振興資金助成費				1,000,000
教小				100,000
小				1,100,000
在学生支援事業				
学課教入卒学小				100,000
学園祭助成費				71,000
課外活支				767,928
教入学文記念品費				219,813
卒学業員活動支援費				770,000
小				18,092
小				1,946,833
小				8,767,022
運営費				
会				273,903
出				1,019,651
出				144,226
本				483,398
会				834,000
小				105,007
通				48,015
備				249,040
印				315,604
消				108,980
慶				0
謝				38,093
手				230,340
賃				47,754
雑				3,898,011
運				
特別会計				
周				1,000,000
松				500,000
苓				2,000,000
特				3,500,000
別				400,000
会				16,565,033
計				7,443,375
○収支残高 (次年度繰越)				

2024 年度 松苓会特別会計決算書				
1 周年事業積立金 (収入の部)				
2023 年度からの繰越				5,755,967
2024 年度繰入				1,000,000
合	計			6,755,967
2 松苓会奨学基金 (収入の部)				
2023 年度からの繰越				9,950,689
2024 年度繰入				500,000
2024 年度貸与返還金				0
利				4,544
合	計			10,455,233
(収出の部)				
2024 年度給付奨学金				513,000
手				1,760
合	計			514,760
(収支) 10,455,233-514,760=9,940,473 (次年度に繰越)				
3 松苓会費積立金 (終身会員積立金の名称変更)				
2023 年度からの繰越				77,308,013
2024 年度繰入				2,000,000
合	計			79,308,013

2024 年度会計収支決算は以上のとおりです。

2025 年 5 月 15 日

二松學舎松苓会会長

平野 光治 ㊞

二松學舎松苓会事務局

山口 千鶴 ㊞

経理監査報告書

2024 年度 (2024 年 4 月 1 日～ 2025 年 3 月 31 日) の会計執行状況について監査の結果、諸帳簿の整備、ならびに、金銭の管理状況は適正であり、収支に誤りのないことを認めたのでここに報告致します。

2025 年 6 月 7 日

二松學舎松苓会監事

田邊 義博 ㊞

二松學舎松苓会監事

佐藤 修 ㊞

神津賢一郎顧問の近況

第10代松苓会長を務められた神津賢一郎顧問から、教え子が95歳のお祝いの会を催してくれたとのことで、一枚の写真が送られてきました。

息災のご様子何よりです。

「自分が今日あるのは、二松学舎大学で学んだお陰」とのコメントが添えられています。



事務局だより

2024年度常任幹事会
(第6回) 3月15日(土)

主な議題

- 1 ホームカミングデーの反省点と来年度の企画について
- 2 業務手当と弁当支給に

ついて

3 松苓会諸規定の改定に関する件

2025年度常任幹事会
(第1回) 5月17日(土)

主な議題

- 1 業務手当について
- 2 第30回定期総会議案について
- 3 二松学舎松苓会諸規定の改定に関する件について

(第2回) 7月12日(土)
主な議題

- 1 部会より
 - ア 事業部会
 - イ 広報部会
 - ウ 総務部会

2001(平成13)年度以前の卒業生の方へ
—終身会員手続きのお願い—

松苓会の運営資金は、ほとんどが終身会員の会費で賄われています。終身会費1万円を納入していただくと終身会員となります。会報を毎号お送りし、ホームカミングデーの案内もお送りします。終身会員の手続きをお取りください。

訃報

神立春樹

名誉舎友・元附属高校長
元国際政治経済学部教授
令和7年2月9日逝去
享年90

大蔵吉次郎(本名・基義)

40文 特別任用教授
令和7年2月15日逝去
享年75

佐藤 保

学校法人二松学舎顧問
令和7年3月30日逝去
享年90

川久保廣衛

35文・院博4文
名誉教授・元学務局長
令和7年7月27日逝去
享年90

ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。

訂正

「松苓会報」第72号に次のとおり、訂正がありました。

茲に訂正し、お詫び申し上げます。

①2頁 4段目の6行目と10行目

(正) 小林 (誤) 小川

②6頁 1段目の4行目

(正) 二上久芳 (誤) 二方久芳

③6頁 2段目の6行目

(正) 経伝釈詞 (誤) 経伝釈詩

④7頁 2段目の22行目

(正) 三島中洲の「中庸」(誤) 三島中洲の「中庸」

⑤人材バンク登録者の表の4段目

(正) 花岡邦郎 48文 (誤) 花岡邦郎 49文

⑥奥付 令和7年3月10日 (誤) 令和6年3月15日

表紙

2025年度の定期総会を終え、酷暑、猛暑、炎暑、激暑のなか今年度の支部総会が各地で開催されている。同郷の同窓生は、年代を越え、集い、語らい、弾ける笑顔に包まれて、和やかな時を過ごす。

編集後記

地球温暖化の影響は深刻です。本号を手にもされる頃も半袖の毎日かもしれません。せめて誌面上だけでも「錦秋」号と記します。本号も6月の定期総会報告など情報は盛りだくさん。目玉は「支部長だより」に続く新連載「全国自慢地図」。各支部から自薦他薦問わず、お国自慢を画像とともに紹介いただきます。第1回は5道県から寄せていただきました。感謝申し上げます。

本報は二松同窓生の交流の場です。皆さまの顔と声をひとつでも多く掲載していきたいと、情報、ご寄稿、ご感想お待ちしております。「松苓会ホームページ」もあわせてご活用ください。

二松学舎
松苓会報
No.74

創刊 昭和62年12月1日
発行 令和7年10月1日
編集 二松学舎松苓会
住所 〒102-8336
東京都千代田区三番町 6-16
電話 03-3261-7408 FAX 03-3261-8914
振替口座 00180-5-160343 (郵便局払込取扱票)
印刷 (株)サンセイ



二松学舎大学(松苓会)
ホームページ
松苓会 E-mail

www.nishogakusha-u.ac.jp
shourei@nishogakusha-u.ac.jp